



SDGsプロジェクト第二弾 認定こども園 長万部マリア幼稚園

毎年ウグイスのさえずりと共に始まるマリア幼稚園の畑作り、今年度も園庭の畑には様々な野菜や果物、豆や麦などを植えました。子どもたちと相談し、種や苗を買いに出かけ、大切に育てています。園の近くの道道には子どもたちと一緒に沢山の花を植え、みんなで開花の喜びを感じながらお世話をしています。花や野菜が育つ上で欠かすことの出来ないのが『水』。幼稚園では長きに渡り、節水を心がけています。その取り組みの一つを紹介します。子どもたちは手を洗う時に流す水も無駄にせず洗面器に溜めて、じょうごでタンクに移し、野菜や花の水やりを使用しています。重たいタンクは年長児が持ち、年中少児は、じょう



ろで水をあげる姿が毎日の園庭遊びで見られる光景です。これまでも少しずつ積み重ねているSDGsの活動。今年度は運動会でもSDGsを意識した競技や遊戯を各年齢ごとに行う予定で、様々な方向性から環境問題を考えて、「小さくてもできることがある！」という意識を高め、未来の地球を守るべく、みんなが助け合うSDGsな保育を目指し続けます。



ポストコロナ元年の教育活動 長万部高等学校

令和5年5月8日にコロナウイルス感染症がいわゆる5類感染症に移行され、本校においてもコロナ前の平常の教育活動を展開していくことが可能となりました。4月は入学式などの学校行事があり、それらを無事に終え、ついに5月の連休明けからは約4年ぶりの平常の教育活動が再開。この3年間、生徒はもちろん教職員も入れ替わり、コロナ前の活動を知る教職員がほとんどおらず、試行錯誤のスタートとなりました。生徒たちの実態をきちんと見極め、コロナ前の活動にとらわれることなく、今の生徒たち、

これからの生徒たちのために様々な活動の改善・充実を図り実施していきます。

5月13日(土)には4年ぶりに写万岳登山を実施しました。晴天に恵まれ10時からの神事後、東京理科大学が、次いで本校生が登山に臨みました。途中の滑る急斜面では友人の手を借りながら、悲鳴を上げながら何とか写万岳を制覇しました。これからの主な学校行事としては、6月上旬の宿泊研修(1年生)、7月上旬の毛がにまつりの手伝い(全員参加)、そして7月中旬の長高祭があります。



【写万岳登山の様子】

のために最善の教育活動を展開できるよう努めて参りますので、これからも本校に対する温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

こんな制度を ご存じですか？

◎就学援助制度とは…

お子さまが、小・中学校に通学するうえで、経済的な理由によりお困りの方に、学校給食費・学用品費・修学旅行費などが支給されます。



◎特別支援教育就学奨励費とは…

国の補助に基づき小・中学校の特別支援学級に在籍するお子さまがいる家庭に、奨励費の支給を実施するもので、学校給食費・学用品費・修学旅行費などが支給されます。学用品費の支給には領収書またはレシートの提出が必要となりますので保管しておいてください。(新1年生の準備用学用品も対象となります。)

【お問い合わせ先】

教育委員会学校教育課(2-2748)

写真で見る学校の様子

長万部高等学校

長万部中学校

長万部小学校



6月8・9日
1学年宿泊研修



6月2日
体育大会（1年生）



5月11日
「旗の波運動」に参加し、ドライバーに交通安全を呼びかけました。（2年生）



6月8・9日
1学年宿泊研修



6月2日
体育大会（2年生）



5月17日・18日
修学旅行で、登別・白老方面に行ってきました。（6年生）



6月8・9日
1学年宿泊研修



6月2日
体育大会（3年生）



6月3日
運動会。練習の成果を出し切りました。（写真は、3年生徒競走）

「正直の頭（こうべ）に神宿る」

長万部中学校長

雨澤 啓司

「正直の頭（こうべ）に神宿る」ということわざがあります。人間は正直でなければいけないということを戒めた言葉として、古くから言い伝えられてきました。英語では、「Honesty is the best policy.」という言葉があります。ですが、やはり、正直の大切さを表した言葉です。

さて、こうした言葉を引き合いに出すまでもなく、正直であること、正直に生きることの大切さは、皆さんが十分にわかってのことだと思いますし、また、正直でありたい、正直に生きたいと誰もが願っていることと思います。

しかし、現実のこととして、毎日の生活を振り返ってみたとき、私たちは、はたしてどれほど正直に生きているのでしょうか。例えば、この一週間の生活を思い浮かべてみてください。家族や友達、先生に対して、一つのうそもなく、正直に過ごしてきたでしょうか。おそらく、大多数の人が、胸にチクリと痛みを感じる何かをもっているのではないかと思います。こういう話をしている私自身がそうなので、すから……。しかし、最も大切なことは、その胸の痛みであり、自分がうそをついたという

最後に、川崎 洋という詩人の「ウソ」という詩の一説を紹介します。

「（前略）ウソをつかない人はいない

というのにはホントであり
ホントだというのはえて
してウソであり

冗談のようなホントがあり
涙ながらのウソがあつて
なにかホントで

どれがウソやら
そこで私はいつも
水をすくう形に両手のひ

らを重ね
そっと息を吹きかけるの
です

このあたにかさだけはウ
ソではない」と
自分でうなずくために

……」